

（株）愛研化工機（愛媛県）が JICA 事業でインドネシアへ パーム油工場での排水処理とバイオガス回収で環境ビジネス貢献

国際協力機構（JICA）は、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において株式会社愛研化工機（愛媛県松山市、岩田真教代表取締役）が提案する「インドネシア国パーム油工場でのバイオガス回収を伴う高濃度排水処理に係る案件化調査」（インドネシア）を採択しました。

インドネシアでは、アブラヤシの果実から取れる植物油（パーム油）生産が総輸出額の約 10%を占める主要産業となっています。しかし、パーム油の製造工程で出る排水について、既設の排水処理システムが不十分であるため、放流先河川の水質汚染を引き起こしています。また、処理過程で温室効果ガスであるメタンガス（バイオガス）が発生し、そのガスは処理されることなく放出されています。他方、インドネシア政府は、環境面で持続的な産業の育成を目指しています。そして、バイオガス放出への対策として全てのパーム油製造企業に対し、2020 年までにバイオガスを全量回収する設備の導入を義務付けていますが、設置導入の進捗状況は芳しくありません。

（株）愛研化工機が提案する排水処理装置「スーパーデブサー」は、パーム油製造工程で出る高濃度の排水を適切に処理し、放流先河川の水質汚濁を防ぎます。同装置は同時に、処理過程で発生するバイオガスを高効率回収し、地球温暖化防止に貢献します。さらに、回収したメタンガスは、ボイラーや発電機の燃料に利用できます。



パーム油原料のアブラヤシの実



廃水処理装置スーパーデブサー

今回の調査では、今後のモデル事業計画を策定するために、モデル事業を実施するパーム油工場の選定や関連情報収集、また排水処理装置「スーパーデブサー」の室内試験機を現地工場に設置して、処理性能や普及性の高い排水システムフローの確認を行います。加えて、将来の同装置導入のために、現地調達、発注できる資機材や工事並びに販売方法や法規制についての情報収集も行います。

（注）本調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行うものです。企業は、製品・技術を ODA 事業に活用するための 情報収集・事業計画立案等を行います。2012 年度から実施されており、2017 年度第 2 回分は今年 9 月に公示を行い、33 件が採択されました。

参考：（プレスリリース）案件化調査 2017 年度第 2 回公示の採択結果について

https://www.jica.go.jp/press/2017/20171226_01.html

【本件に関する問い合わせ先】

独立行政法人国際協力機構 四国支部（JICA 四国）：宮崎 誠
TEL 087-821-8834 e-mail : Miyazaki.Makoto@jica.go.jp